

平成23年度における大竹市の決算状況

1 収入及び支出の状況

平成23年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における歳入総額は、131億7,344万6,868円（対前年度比9.5%減）、歳出総額は、131億3,794万4,561円（同比9.1%減）となり、歳入・歳出決算額とも前年度を下回りました。

形式収支は、3,550万2,307円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源2,830万6,900円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、719万5,407円となりました。

（1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、市たばこ税が約2,910万円増加したものの、法人市民税が約1億788万円、固定資産税が約2億4,031万円減少し、市税全体では約3億4,793万円（対前年度比5.7%）の減となりました。

また、地方交付税は2,436万円（同比2.2%）の減、国庫支出金が約4億9,596万円（同比22.0%）の減となりました。

市債は、臨時財政対策債の発行や大規模事業に係る地方債を発行したものの、大竹小学校改築事業や地域情報基盤整備事業等いくつかの事業が終了したことにより、5億1,113万円（同比23.1%）の減となりました。

（2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「10年後の大竹が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう6つの基本目標

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

を基軸とし、将来を見据えた事業に取り組みました。

① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

具体的には、強固な地盤で災害に強く教育環境に適した小方ヶ丘に施設一体型の小中一貫校として整備する**小方小学校・小方中学校移転改築事業**（事業費4億4,000万円）や、市内の中学生が沖縄県の中学生と生活を共にし、様々な体験学習を通じて友情を深める中で広い視野を持った次代を担う人材育成を図る目的の中学生交歓交流、「おおたけ」を愛する心を育てるため三倉岳登山や阿多田島での漁業見学など大竹市の産業・観光を体験する**21世紀を担う人づくり事業**（事業費81万円）などを行いました。

② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

具体的には、「スポーツの場」・「アメニティ・レクリエーションの場」・「憩いの場」として魅力のある公園を整備する、**晴海臨海公園整備事業（基本設計）**（事業費4,272万円）を行い、**地域公共交通整備事業**（事業費1億3,545万円）では、こいこいバス、三ツ石乗合タクシーの実証運行の継続や新たな乗合タクシーと栄ぐるりんバスの実証運行を実施しました。また、こいこいバスについて高齢者や子どもも乗降しやすい低床車両を2台導入しました。

③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

具体的な事業として、**防災体制整備事業**（事業費709万円）では防災行政無線システムについて、新たに屋外拡声子局や戸別受信機を設置し、**急傾斜地崩壊対策事業**（事業費2,508万円）では、市内の危険箇所指定区域について、宅地背面・山腹法面の保護を行うため、擁壁や防護柵を整備しました。

④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

具体的には、**広島西医療センター医療機器整備補助事業**（事業費 8,704 万円）として、地域における診断・診察機能を強化し、早期発見・早期治療による市民の健康を確保する目的での医療機器（PET-CT）整備や、**妊産婦健康診査等支援事業**（事業費 335 万円）では妊婦健康診査の受診を促し、より安全な出産ができるよう、費用の一部を助成しました。

⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、生き生きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

具体的には子どもたちの図書に触れる機会を増やすことを目的とした**図書館キッズコーナー整備事業**（事業費 127 万円）や住宅用太陽光発電システムの補助や公共施設のエコ診断といった**地球温暖化対策事業**（事業費 266 万円）などを行いました。

⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

具体的には、大竹駅前「みくらす」、総合市民会館ロビーに設置したデジタルサイネージで行政情報などを発信する**デジタルサイネージ運用事業**（事業費 300 万円）や、**定住促進（まちの魅力発信）事業**（事業費 219 万円）では市ホームページ内に定住促進ページの作成や、企業従業員（転勤者など）向けのガイドブック作成などを行いました。

※ 事業費は普通建設事業費（事務費等を含む）ベースで算定し、整数未満を端数処理しています。